

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	北海道医療大学
設置者名	学校法人東日本学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
薬学部	薬学科	夜・通信			20	20	19	
歯学部	歯学科	夜・通信			25	25	19	
看護福祉学部	看護学科	夜・通信			13	13	13	
	福祉マネジメント学科	夜・通信			13	13	13	
心理科学部	臨床心理学科	夜・通信			16	16	13	
リハビリテーション科学部	理学療法学科	夜・通信			14	14	13	
	作業療法学科	夜・通信			17	17	13	
	言語聴覚療法学科	夜・通信			13	13	13	
医療技術学部	臨床検査学科	夜・通信			20	20	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/support/>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	北海道医療大学
設置者名	学校法人東日本学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/support/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	令和7年6月26日 から2年以内に終 了する会計年度の うち最終のものに 関する定時評議員 会の終結の時まで	コンプライアンス
非常勤	会社経営者	令和7年6月26日 から2年以内に終 了する会計年度の うち最終のものに 関する定時評議員 会の終結の時まで	経営に関するアド バイスやモニタリ ング
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	北海道医療大学
設置者名	学校法人東日本学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画書(シラバス)は、次年度の科目担当教員確定後、概ね12月～1月の期間内で「シラバスWEB編集システム」を用いて担当教員自身が作成しており、事務局による校正および教員による第三者チェックを経て、3月下旬までに完成している。 ・作成した授業計画書は、ホームページへの掲載を行い、学生・教職員だけでなく、高校生や保護者・社会人などの第三者も閲覧できるよう整備している。 ・記載内容は「建学の理念」「教育理念」「教育目標」「大学及び学部の三方針」「教務日程」「時間割」のほか、各授業科目については、「授業形態」「配当学年・学期」「必修・選択区分」「単位数」「担当者名」「概要」「学修目標」「学修内容」「評価方法」「備考(教科書等)」「学修の準備」「ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連」「実務経験」等の各項目で構成されている。 	
授業計画書の公表方法	http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/for/student/syllabus/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各授業科目の学修成果を評価するため、「定期試験」「レポート」「小テスト」等、あらかじめ科目ごとに設定し授業計画書(シラバス)に明示した成績評価の方法・基準に基づき、厳格かつ適正に単位を授与している。</p> <p>なお、成績の評価については学則により下記の通り定め、『学生便覧』及びホームページにて公表している。</p>	
<p>(成績)</p> <p>第35条 授業科目の成績の評価は、優・良・可・不可の4種とし、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とし、優・良・可を合格、不可を不合格とする。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学では客観的な指標としてGPA制度を取り入れている。各科目の評点ごとに下記①のとおりGP (Grade Point) を設定し、原則として不可・失格・履修無効を含む履修登録したすべての科目を対象に下記②の計算式により算出している。

なお、受講を取りやめた科目については、履修登録取消の手続き期間内に所定の手続きを行うことで、GPA算出の対象から除外することができることとしている。また、GPAの算出方法については『学生便覧』及びホームページにて公表している。なお、別添資料の通り、GPAに基づき、成績の分布状況の把握を行っている。

①評価 (評点) 区分とGP

評価等	評点	GP
優	100～90点	4
	89～80点	3
良	79～70点	2
可	69～60点	1
不可	60点未満	0
失格	—	0
履修無効	—	0

GPA制度について
GPA (Grade Point Average) とは、履修した授業科目の成績評価 (評点) を所定の点数=GP (Grade Point) に換算して、1単位あたりの平均値を表したもの

②GPAの計算式

$$GPA = \frac{(\text{履修登録した授業科目の単位数} \times \text{左記授業科目のGP}) \text{の合計}}{\text{履修登録した授業科目の単位数の合計}}$$

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/disclosure/gpa/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

全学および各学部において下記の通り「学位授与の方針」を定めており、『学生便覧』やホームページ等にて公表している。

学位授与の方針【全学】

北海道医療大学は、大学および各学部学科の教育理念・教育目的に基づいた教育目標の達成に向けて、全学教育および専門教育科目を履修し、保健・医療・福祉の高度化・専門化に対応しうる高い技術と知識、優れた判断力と教養を身につけ、各学部学科が定める履修上の要件を満たした学生に対して「学士」の学位を授与します。

学位授与の方針【例：薬学部】 ※他学部も同様に学部・学科ごとに定め、公表している。

薬学部薬学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。これらの要件には、薬剤師として社会で活躍するための基本的な 10 の資質*の養成が含まれる。

1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。
2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。
3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域的および国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。
4. 卒業研究や実務実習等を通じて、医療の進歩に対応できる柔軟性、高度先進技術の理解と活用、ならびに臨床における問題点を発見・解決する能力を有する。
5. 後進の育成に努め、かつ生涯にわたって常に学び続ける姿勢と意欲を有する。

*薬剤師として求められる基本的な資質

- ① プロフェッショナルリズム
- ② 総合的に患者・生活者を見る姿勢
- ③ 生涯にわたって共に学ぶ姿勢
- ④ 科学的探究
- ⑤ 専門知識に基づいた問題解決能力
- ⑥ 情報・科学技術を活かす能力
- ⑦ 薬物治療の実践的能力
- ⑧ コミュニケーション能力
- ⑨ 多職種連携能力
- ⑩ 社会における医療の役割の理解

また、学則において卒業要件を下記のとおり定め、授業計画書（シラバス）やホームページ等にて公表している。

(単位・時間数) ※例：薬学部 (他学部も同様に学部・学科ごとに定めている)

第 30 条 薬学部の学生は、別表に定めるとおり、全学教育科目 32 単位及び専門教育科目 160 単位、総計 192 単位以上修得しなければならない。

第 44 条 看護福祉学部、心理科学部、リハビリテーション科学部及び医療技術学部に 4 年以上、薬学部及び歯学部に 6 年以上在学し、第 30 条において各学部ごとに定める単位を修得した者については、当該学部の教授会及び評議会の議を経て、学長が卒業を認定する。

上記の方針及び卒業要件を踏まえ、単位修得状況等をもとに各学部教授会及び評議会の議を経て、学長により適切に卒業を認定することとしている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/about/philosophy/policy/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	北海道医療大学
設置者名	学校法人東日本学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/disclosure/zaimu/
収支計算書又は損益計算書	http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/disclosure/zaimu/
財産目録	http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/disclosure/zaimu/
事業報告書	http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/disclosure/zaimu/
監事による監査報告(書)	http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/disclosure/zaimu/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/tenken/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 薬学部薬学科
教育研究上の目的 (公表方法 : http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/pharm/rinen/)
(概要) 教育理念および教育目的を下記のとおり定め、授業計画書(シラバス)及び『学生便覧』に記載し、ホームページにて公表している。
教育理念 本学の教育理念を基本として、薬と医療にかかわる総合的な科学技術教育を推進することにより、人々の健康を守り、地域社会ならびに人類の幸福に貢献することを薬学部薬学科の教育理念とする。
教育目的 薬学部薬学科の教育理念に沿って、薬剤師としての社会的使命を正しく遂行し得るために必要な豊かな人間性、薬と医療にかかわる科学的知識、研究・実習を通じて体得した技能と問題解決能力を有する人材の養成を本学科の教育目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 : http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/pharm/policy/)
(概要) 学位授与の方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。
薬学部薬学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。これらの要件には、薬剤師として社会で活躍するための基本的な 10 の資質*の養成が含まれる。
1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。
2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。
3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域的および国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。
4. 卒業研究や実務実習等を通じて、医療の進歩に対応できる柔軟性、高度先進技術の理解と活用、ならびに臨床における問題点を発見・解決する能力を有する。
5. 後進の育成に努め、かつ生涯にわたって常に学び続ける姿勢と意欲を有する。
*薬剤師として求められる基本的な資質 ① プロフェッショナリズム ② 総合的に患者・生活者を見る姿勢 ③ 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 ④ 科学的探究 ⑤ 専門知識に基づいた問題解決能力 ⑥ 情報・科学技術を活かす能力 ⑦ 薬物治療の実践的能力 ⑧ コミュニケーション能力 ⑨ 多職種連携能力 ⑩ 社会における医療の役割の理解
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/pharm/policy/)
(概要) 教育課程編成・実施に関する方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。
薬学部薬学科の学位授与の方針に基づき、全学年を通して、「薬学教育モデル・コア・

カリキュラム」に基づく教育・研究に加えて本学独自の教育課程を展開する。また、チーム医療の重要性を体験する教育プログラムなどを通して、本学で学んだアイデンティティが自覚できるプログラムを構築する。その教育課程の編成・実施の方針を以下に示す。

1. 高い倫理観と豊かな人間性をもつ薬剤師を養成するため、倫理や法規制度に関連する科目ならびにグループ討議を多用したコミュニケーション教育科目を配当する。
2. 薬学専門教育へ向けての基礎学力向上を目的とした教育プログラムを低学年において配当する。また、基礎薬学領域から社会薬学領域、衛生薬学領域、医療薬学領域、臨床薬学領域へと順次段階を経て総合的に修得できるよう、専門教育科目を中心とした教育プログラムを展開する。
3. 医療系総合大学の利点を活かし、薬剤師を含めた医療従事者の職能を理解し、チーム医療の基礎となる全学部共同の教育科目を配当する。また、長期実務実習を配当し、4年次までに修得した知識・技能・態度を医療現場で実践して、地域的視点および国際的視野を持つ薬剤師として必要な基礎的・応用的能力を養成する。
4. 4年次から6年次にかけて、科学者としての薬剤師の能力を涵養するために、配属講座にて少人数制による総合薬学研究を行う。併せて、下級学年の学生の実験指導を通じて、後進の育成の重要性を体感する。
5. 科目の評価は、知識領域については主に試験、技能や態度についてはレポート・チェックリスト・ルーブリック等を用いて評価する。薬学実務実習についてはルーブリックをもとに形成的評価を継続的に行い、指導薬剤師および実務家教員による総合評価を行う。卒業研究は、配属講座教員による形成的評価、卒業研究論文および発表会の内容についてルーブリック等を用いて評価する。
6. 6年間の統合された学修評価は、1年次から担任との面談（年2回）によって作成されている学生カルテや自己評価シートを用いて、配属講座担当教員との面談によって到達度を評価する。また、各科目とディプロマ・ポリシーの関連性と科目評価を統合した「ディプロマ・ポリシー到達度可視化システム」を面談等で活用する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/pharm/policy/>)

(概要) 入学者の受入れに関する方針を下記の通り定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

薬学部薬学科では、学位授与の方針の要件を修得し、チーム医療を始め地域社会や国際社会に貢献できる自立した薬剤師を養成することを目標としています。そのため、本学科では学位授与の方針の要件を、より効果的に達成しうる資質を持った以下のような人材を広く求めます。

1. 保健・医療・福祉活動を通じて社会に貢献しようとする意欲がある人
2. 生命を尊重し、他者を理解し、大切に思う心がある人
3. 薬学を学ぶ基礎学力*を有し、高い学習意欲のある人
4. 主体性を持って様々な人々と協同して学ぶ意欲のある人
5. 他の医療スタッフと協働し、薬剤師として活躍したいという強い意志を持っている人
6. 薬学分野の様々なことに強い好奇心と探求心を持ち、最新の知識・技術を常に学び続けようとする人

*基礎学力について

薬学部薬学科では、入学後、専門科目の基礎として、医薬品の定量的な扱いのための化学計算、物性の理解のための物理化学、医薬品が作用する生体の働きを理解するための有機化学・生化学

などの科目があります。また、国際的に用いられている医薬品の理解には英語、そして実験実習には英語論文の理解が必要です。すなわち、高校で学習した数学、英語、化学、生物、物理などの知識や考え方を有効に活用することが学修成果を高めることにつながります。

ここに示す「基礎学力を有し」とは、上記科目を高校で履修していることをさします。ただし、理科3科目全ての履修は限定されるため、少なくとも1科目を履修しており、未履修の科目については合格後に本学が提供する教育プログラムを受講することを推奨します。

なお、入学者選抜区分ごとの入学希望者に求める能力、水準等の判定方法は以下のとおりです。適性を総合的に評価して入学者を選抜します。

「総合型選抜」は、これまでの学習・活動履歴や人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価します。また学力試験により基礎学力を評価します。

「学校推薦型選抜」は、学校長等からの推薦をうけて、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価します。また学力試験により基礎学力を評価します。

「一般選抜・共通テスト利用選抜」は、これまでの学習・活動履歴や人物を調査書等により評価し、学力試験により、英語・数学・理科等の多様な基礎学力を評価します。

「社会人特別選抜」は、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価し、さらに学力試験により基礎学力を評価します。

「外国人留学生特別選抜」は、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲及び日本語能力を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価し、さらに学力試験により基礎学力を評価します。

学部等名 歯学部歯学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/dent/rinen/ ）
（概要）教育理念および教育目的を下記のとおり定め、授業計画書（シラバス）及び『学生便覧』に記載し、ホームページにて公表している。
教育理念 本学の教育理念を基本として、歯科保健、歯科医療と福祉の連携・統合をはかる教育を推進し、人々のライフステージに応じた口腔の健康を守る医療人の養成をもって、地域社会ならびに国際社会に貢献し人類の幸福に寄与することを歯学部歯学科の教育理念とする。 1. 歯科保健・歯科医療と福祉の連携・統合 高齢化及び少子化の影響を受けて、疾病構造が大きく変化し、歯科医療は大きな転換期を迎えており、高齢者や障害者の治療・予防・ケアを通じて、地域における福祉と密接な連携を図る必要がある。さらには、在宅の患者に対する訪問歯科ケアも重要性を帯びてきており、看護や介護・リハビリ関係者との連携もますます重要になっている。 したがって、歯学部では、高齢者歯科学・障害者歯科学・歯科医療福祉論等、時代に即応した新しい教育を行う必要がある。つまり、歯科医療を通じて社会における保健と医療と福祉の連携・統合を図ることが、本学歯学部の教育理念である。 2. 生涯を通じた口腔の健康を守る医療人の養成 超高齢社会の到来とともに、口腔疾患の予防と健康増進に対する国民の関心は、ますます高くなっている。これからの歯科医療は、患者の健康状態を心身の両面から総合的に把握し、顎口腔系疾患を全身的知見からとらえていかねばならない。した

がって、これからの歯科医療は、一人一人の患者の生涯を通じた口腔の健康を守る社会的使命を担うことになる。

また、社会のグローバル化に伴い様々な場面で国際的視野に基づいた医療行動が求められている。地域社会と国際社会との連携が要求される所以であり、学生教育においてその重要性を教授し、地域社会および国際社会への貢献を図ることを教育理念とする。

教育目的

歯学部歯学科の教育理念に沿って、豊かな人間性と職業倫理を備え、人々の健康の維持・増進に寄与するとともに、地域的および国際的視野から歯科医学の発展および歯科医療の向上に貢献できる歯科医師の養成を本学科の教育目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/dent/policy/>）

（概要）学位授与の方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

歯学部歯学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。

1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。
（専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力）
2. 「総合的に患者・生活者を支える歯科医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている。
（総合的に患者・生活者をみる姿勢、プロフェッショナリズム、コミュニケーション能力）
3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適応する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。
（科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢）
4. 多職種（保健、医療、福祉、介護）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる能力を身につけている。
（多職種連携能力）
5. 歯科医療の専門家として、経済的な観点・地域特性を捉えた視点・国際的な視野を持ちながら活躍できる能力を身につけている。
（社会における医療の役割の理解）

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/dent/policy/>）

（概要）教育課程編成・実施に関する方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

歯学部歯学科の学位授与方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. 歯科医師として必要な基本的知識・技能・態度および発展し続ける情報・科学技術を活かす能力の修得をめざし、専門基礎科目および専門臨床科目の講義・実習を1年次～4年次に段階的に配当する。また、4年次における共用試験（CBT・OSCE）で基礎項目の評価後、5年次～6年次前期に大学病院、および地域での診療参加型臨床実習を行い、医学及び関連する学問分野の専門知識による問題解決能力と患者ケアのための臨床技能に基づいた臨床的実践能力を養成する。6年次後期には、知識・技能・態度を体系的・総合的に整理し、基本的資質・能力の養成を図る。

（情報・科学技術を生かす能力、専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための

診療技能)

2. 総合的に患者・生活者を支える医療を提供し法と倫理を遵守する人間性豊かな歯科医師の養成のために、医療倫理教育および医療コミュニケーション教育を1年次～4年次に段階的に編成する。これらの能力については、4年次における共用試験で模擬的・客観的に評価した後、5年次～6年次前期に担当する診療参加型臨床実習によりさらなる養成を図る。また、6年次後期にそれらを体系的・総合的に整理し、本学科が定めた歯科医師として求められる基本的資質・能力の養成を図る。

(総合的に患者・生活者をみる姿勢、プロフェッショナリズム、コミュニケーション能力)

3. 生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を続け医療者教育と学術・研究活動にも関与できる意欲と態度を有する人材の養成を図るため、歯科医学研究科目を編成し、実施する。

(科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢)

4. 多職種連携に関する講義・演習を1年次～4年次に段階的に担当し、5年次～6年次前期での診療参加型臨床実習において実践する。さらに6年次後期に多職種連携によるチーム医療を体系的・総合的に整理することにより、基本的資質・能力の養成を図る。

(多職種連携能力)

5. 経済的な観点および地域特性を捉えた視点を持ちながら地域の保健や医療に貢献できる知識と実践的能力養成に向けて演習および診療参加型臨床実習を編成する。また、歯学英语科目に加えて、海外医療時事に関する講義・演習科目および海外臨床研修・実習を実践し、国際的視野の涵養を図る。

(社会における医療の役割の理解)

6. 履修科目の学修達成度は、知識に関しては筆記試験やCBT、技能や態度に関してはOSCE、レポート、ポートフォリオ、チェックリストおよびルーブリック等を用いて評価する。診療参加型臨床実習については、ポートフォリオによる継続的な形成的評価およびコンピテンシー試験で基本的な臨床能力を評価する。グローバルマインド、研究マインドの達成度評価には海外臨床研修の研修報告書や各種学術大会等での発表内容、ルーブリック等を用いた活動状況や達成度から検証する。また、歯科医師として具有すべき知識に関して、その達成度を卒業試験で評価し、臨床実習終了時に技能・態度の総括的な評価を行う。

入学者の受入れに関する方針 (公表方法: <http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/dent/policy/>)

(概要) 入学者の受入れに関する方針を下記の通り定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

歯学部歯学科では、学位授与の方針の要件を修得し、多職種連携によるチーム医療をはじめ地域社会や国際社会に貢献できる自立した歯科医師を養成することを目標としています。そのため、本学科では、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

1. 歯科医師として医療現場で活躍するという強い意志を持っている人
2. 生命を尊重し、他者を大切に思う心がある人
3. 生涯にわたって学修を継続し、自己を磨く意欲を持っている人
4. 保健・医療・福祉に関心があり、地域社会および国際社会に貢献するという目的意識を持っている人
5. 入学後の修学に必要な基礎学力*を有している人

*基礎学力について

歯学部歯学科では、専門科目でヒトの体の構造と機能を学ぶとともに歯科治療に用いる様々な材

料の物性、化学薬品の性質、検査・治療器具の理論を学びます。そこで生物、物理、化学、数学などの科目を理解し、応用できることが入学後の学修成果を高めることとなります。さらに、専門科目を学ぶ際には英語刊行物の理解が必要になることがあり、また、国際化していく医療現場で貢献する準備として英語力が必要になります。ここに示す「基礎学力を有し」とはこれらの科目を高校で履修していることをさします。ただし、理科3科目全ての履修は限定されるため、少なくとも1科目を履修しており、未履修の科目については合格後に本学が提供する教育プログラムを受講することを推奨します。

なお、入学者選抜区分ごとの入学希望者に求める能力、水準等の判定方法は以下のとおりです。適性を総合的に評価して入学者を選抜します。

「総合型選抜」は、これまでの学習・活動履歴や人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価します。また学力試験により基礎学力を評価します。

「学校推薦型選抜」は、学校長等からの推薦をうけて、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価します。また学力試験により基礎学力を評価します。

「一般選抜・共通テスト利用選抜」は、これまでの学習・活動履歴や人物を調査書等により評価し、学力試験により、英語・数学・理科等の多様な基礎学力を評価します。

「社会人特別選抜」は、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価し、さらに学力試験により基礎学力を評価します。

「外国人留学生特別選抜」は、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲及び日本語能力を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価し、さらに学力試験により基礎学力を評価します。

学部等名 看護福祉学部看護学科

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/nss/rinen/>）

（概要）教育理念および教育目的を下記のとおり定め、授業計画書（シラバス）及び『学生便覧』に記載し、ホームページにて公表している。

教育理念

本学の教育理念を基本として、看護と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、総合的なヒューマンケアを担う看護専門職業人を養成することにより、地域社会や人々の健康の向上に貢献することを看護福祉学部看護学科の教育理念とする。

教育目的

看護福祉学部看護学科の教育理念に沿って、人々の健康と福祉の向上のために、看護と福祉を総合的に俯瞰した専門的知識・技術を修得し、人々の尊厳を守り、維持するための総合的ヒューマンケアを実践できる看護専門職業人としての看護師の養成を本学科の教育目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/nss/policy/>）

（概要）学位授与の方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

看護福祉学部看護学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。

1. 人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性を身につけている。
2. 看護専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切

- かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。
3. 社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。
 4. 保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。
 5. 多様な文化や価値観を尊重して地域社会に貢献できる能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/nss/policy/>)

(概要) 教育課程編成・実施に関する方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

看護福祉学部看護学科の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. 看護学科の教育理念を積極的に展開するために、ヒューマンケアの要素である4領域「人間」、「環境」、「健康」、「実践」を設定し、それらの概念を基本として、各領域における授業科目間の順次性と体系性を保つように科目を配当する。
2. 1年次では、学修動機の明確化を図り、豊かな人間性や協調性、国際的視野を身につけるための全学教育科目、看護専門職に必要な基礎的知識および看護と福祉に共通するケアマインドを修得するための科目を配当する。
3. 2年次では、看護専門職に必要な専門基礎知識・技術、および様々な人々を対象とした看護学の知識と援助方法を修得するための科目を配当する。
4. 3年次では、2年次までの学修成果の上に立ち、看護専門職に必要な知識と技術を深めるための講義、演習および実習科目を配当する。また、ヒューマンサービスにおける多職種連携にむけた協調性を身につけるための科目を配当する。
5. 4年次では、3年次までの学修成果の上に立ち、理論と実践に習熟し、自らの専門領域を発展させる能力を養成するための実習、専門演習、卒業研究を配当する。
6. 主体的な学修を促すために、講義・演習の事前事後の学修課題を提示するとともに、グループワークや発表を取り入れる。
7. 学修成果を把握・評価するために、筆記試験、ルーブリックを用いたレポート、実技試験などを実施する。

入学者の受入れに関する方針 (公表方法:<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/nss/policy/>)

(概要) 入学者の受入れに関する方針を下記の通り定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

看護福祉学部看護学科では、学位授与の方針の要件を修得し、総合的ヒューマンケアを実践し地域社会や人々の健康の向上に貢献できる看護専門職の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

1. 保健・医療・福祉に関心があり、看護を通じて社会に貢献しようとする意欲がある人
2. 生命を尊重し、他者を理解し、大切に思う心がある人
3. 看護学を学ぶための基礎学力*を有し、高い学修意欲および探求心のある人
4. 看護専門職として保健・医療・福祉の現場で活躍したいという強い意志を持つ人
5. 看護専門職として最新の知識・技術を常に学び続けようとする人

*基礎学力について

英語、数学、国語を高等学校等で履修しており、生体の成り立ちや活動を理解するうえで必要とな

る化学、生物、物理、大学のリベラルアーツ教育の基本となる世界史、日本史、地理、現代社会、政治・経済について、少なくとも1科目以上を履修していることをさします。

なお、入学者選抜区分ごとの入学希望者に求める能力、水準等の判定方法は以下のとおりです。適性を総合的に評価して入学者を選抜します。

「総合型選抜」は、これまでの学習・活動履歴や人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価します。また課題レポート・小論文などにより論理的思考力、表現力を評価します。

「学校推薦型選抜」は、学校長等からの推薦をうけて、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価します。また課題レポート・小論文などにより論理的思考力、表現力を評価します。

「一般選抜・共通テスト利用選抜」は、これまでの学習・活動履歴や人物を調査書等により評価し、学力試験により、英語・数学・理科・国語・地歴、公民等の多様な基礎学力を評価します。

「社会人特別選抜」は、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価し、さらに学力試験により基礎学力を評価し、課題レポート・小論文などにより論理的思考力、表現力を評価します。

「外国人留学生特別選抜」は、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲及び日本語能力を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価し、さらに学力試験により基礎学力を評価します。

学部等名 看護福祉学部福祉マネジメント学科

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/fukushi/rinen/>）

（概要）教育理念および教育目的を下記のとおり定め、授業計画書（シラバス）及び『学生便覧』に記載し、ホームページにて公表している。

教育理念

本学の教育理念を基本として、看護と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、総合的なヒューマンケアを担う福祉専門職業人を養成することにより、地域社会や人々の福祉の向上に貢献することを看護福祉学部福祉マネジメント学科の教育理念とする。

教育目的

看護福祉学部福祉マネジメント学科の教育理念に沿って、人々の健康と福祉の向上のために、看護と福祉を総合的に俯瞰した専門的知識・技術を修得し、人々の尊厳を守り、維持するための総合的ヒューマンケアの観点から社会福祉士や精神保健福祉士など臨床現場をはじめ、保健・福祉・行政などの場でリーダーとして活躍できる専門職業人の養成を本学科の教育目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/fukushi/policy/>）

（概要）学位授与の方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

看護福祉学部福祉マネジメント学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。

1. 人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性を身につけている。
2. 福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切

- かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。
3. 社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。
 4. 保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。
 5. 多様な文化や価値観を尊重して地域社会に貢献できる能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法:<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/fukushi/policy/>)

(概要) 教育課程編成・実施に関する方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

- 看護福祉学部福祉マネジメント学科の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。
1. 福祉マネジメント学科の教育理念を積極的に展開するために、ヒューマンケアの要素である4領域「人間」、「環境」、「健康」、「実践」を設定し、それらの概念を基本として、各領域における授業科目間の順次性と体系性を保つように科目を配当する。
 2. 1年次では、学修動機の明確化を図り、豊かな人間性や協調性、国際的視野を身につけるための全学教育科目、福祉専門職に必要な基礎的知識および看護と福祉に共通するケアマインドを修得するための科目を配当する。
 3. 2年次では、福祉専門職に必要な専門基礎知識および様々な人々を対象とした知識と援助方法を修得するための専門教育科目を配当する。
 4. 3年次では、2年次までの学修成果の上に立ち、福祉専門職に必要な知識と技術を深めるための講義、演習および実習科目を配当する。また、ヒューマンサービスにおける多職種連携にむけた協調性を身につけるための科目を配当する。
 5. 4年次では、3年次までの学修成果の上に立ち、理論と実践に習熟し、自らの専門領域を発展させる能力を養成するための実習、専門演習、卒業研究を配当する。
 6. 主体的な学修を促すために、講義・演習の事前事後の学修課題を提示するとともに、グループワークや発表を取り入れる。
 7. 学修成果を把握・評価するために、筆記試験、ループリックを用いたレポート、実技試験などを実施する。

入学者の受入れに関する方針 (公表方法:<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/fukushi/policy/>)

(概要) 入学者の受入れに関する方針を下記の通り定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

- 看護福祉学部福祉マネジメント学科では、学位授与の方針の要件を修得し、総合的ヒューマンケアを実践し地域や人々の福祉の向上に貢献できる福祉専門職の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。
1. 保健・医療・福祉に関心があり、福祉を通じて社会に貢献しようとする意欲がある人
 2. 生命を尊重し、他者を理解し、大切に思う心がある人
 3. 臨床福祉学を学ぶための基礎学力*を有し、高い学修意欲および探求心のある人
 4. 福祉専門職として保健・医療・福祉の現場で活躍したいという強い意志を持つ人
 5. 福祉専門職として最新の知識・技術を常に学び続けようとする人

***基礎学力について**

英語、数学、国語を高等学校等で履修しており、生体の成り立ちや活動を理解するうえで必要となる化学、生物、物理、大学のリベラルアーツ教育の基本となる世界史、日本史、地理、現代社会、政治・経済について、少なくとも1科目以上を履修していることをさします。

なお、入学者選抜区分ごとの入学希望者に求める能力、水準等の判定方法は以下のとおりです。適性を総合的に評価して入学者を選抜します。

「総合型選抜」は、これまでの学習・活動履歴や人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価します。また課題レポート・小論文などにより論理的思考力、表現力を評価します。

「学校推薦型選抜」は、学校長等からの推薦をうけて、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価します。また課題レポート・小論文などにより論理的思考力、表現力を評価します。

「一般選抜・共通テスト利用選抜」は、これまでの学習・活動履歴や人物を調査書等により評価し、学力試験により、英語・数学・理科・国語・地歴、公民等の多様な基礎学力を評価します。

「社会人特別選抜」は、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価し、課題レポート・小論文などにより論理的思考力、表現力を評価します。

「外国人留学生特別選抜」は、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲及び日本語能力を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価し、さらに学力試験により基礎学力を評価します。

学部等名 心理科学部臨床心理学科

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/shinri/rinen/>）

（概要）教育理念および教育目的を下記のとおり定め、授業計画書（シラバス）及び『学生便覧』に記載し、ホームページにて公表している。

教育理念

本学の教育理念を基本として、現代科学技術の成果を認識し、心にかかわる自然科学と人文社会科学の連携による健康科学教育を推進する。生命の価値に対する倫理観を涵養し、心の障害、コミュニケーション障害を真摯に受け止めることが出来る知性と感性を備えた人材を養成することにより、人類の幸福に貢献することを心理科学部臨床心理学科の教育理念とする。

教育目的

心理科学部臨床心理学科の教育理念に沿って、心にかかわる自然科学と人文社会科学が連携した教育を通して、生命の価値に対する真摯な倫理観を涵養し、心の障害、コミュニケーション障害を一生の出来事として受け止めることが出来る知性と感性を備えた公認心理師や産業カウンセラー、スクールカウンセラー等の心理学に関する専門的知識を修得した人材の養成を本学科の教育目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/shinri/policy/>）

（概要）学位授与の方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

心理科学部臨床心理学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。

1. 心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得している。
2. 社会の変化、科学技術の進展に合わせて、教養と専門性を維持向上させる能力を修

得している。

3. 社会の様々な分野において、心の問題を評価し、それを適切に判断し援助できる基礎的技能を修得している。

教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/shinri/policy/>)

(概要) 教育課程編成・実施に関する方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

心理科学部臨床心理学科の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. 1年次には、大学教育へのスムーズな移行を図るために、導入科目を配当する。また、健康・運動科学および情報化社会への対応科目も1年次に配当する。
2. 豊かな人間性・自立性・創造性・協調性等を身につけるために、教養科目を1年次から2年次に配当する。また、社会のグローバル化・多文化化に対応する外国語科目を1年次から2年次に配当する。
3. 1年次から3年次にかけては、身体科学と対応した心の基礎的な知識を身につけるために関連する医療基盤科目、医療系科目を配当する。
4. 1年次より、専門教育科目の体系化・構造化を図り、臨床心理専門領域の理解・深化を目的とした科目を配当する。また、1年次から4年次にわたって、公認心理師受験資格取得科目を配当し、国家資格に必要な知識・技能の修得を図る。
5. 2年次より、多様な職業分野へのキャリア形成を図るため、進路支援科目・産業心理科目を配当する。また、心理臨床の基礎的技能を修得するために、1年次から4年次にわたって、コミュニケーション科目・心理療法科目を配当する。
6. 3年次以降は、専門演習、心理文献講読等の科目履修を通して、自らのテーマによって教養と専門性を維持向上させる研究を実践する。
7. 学修成果を把握・評価するために、筆記試験、ルーブリックを用いたレポート、実技試験などを実施する。

入学者の受入れに関する方針(公表方法:<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/shinri/policy/>)

(概要) 入学者の受入れに関する方針を下記の通り定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

心理科学部臨床心理学科では、学位授与の方針の要件を修得し、社会の要請と期待に応じて地域や人々の健康の向上に貢献できる心理専門職の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

1. 生命を尊重し、他者を理解し、大切に思う心がある人
2. 心の問題に関心を持ち、他者を援助することに意欲を持っている人
3. 入学後の修学に必要な基礎学力*を有している人
4. 生涯にわたって学び、それを継続する意思を有している人
5. 心理学の専門家として地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという強い目的意識を持っている人

*基礎学力について

高等学校等で英語、国語等の履修により修得した基礎的知識に加えて、それらを活用し、自ら発展させていく意欲等を含むものをさします。

なお、入学者選抜区分ごとの入学希望者に求める能力、水準等の判定方法は以下のとおりです。適性を総合的に評価して入学者を選抜します。

「総合型選抜」は、これまでの学習・活動履歴や人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価します。また課題レポート・小論文などにより論理的思考力、表現力を評価します。

「学校推薦型選抜」は、学校長等からの推薦をうけて、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価します。また課題レポート・小論文などにより論理的思考力、表現力を評価します。

「一般選抜・共通テスト利用選抜」は、これまでの学習・活動履歴や人物を調査書等により評価し、学力試験により、英語・数学・理科・国語・地歴、公民等の多様な基礎学力を評価します。

「社会人特別選抜」は、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価し、課題レポート・小論文などにより論理的思考力、表現力を評価します。

「外国人留学生特別選抜」は、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲及び日本語能力を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価し、さらに学力試験により基礎学力を評価します。

学部等名 リハビリテーション科学部理学療法学科

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/rigaku/rinen/>）

（概要）教育理念および教育目的を下記のとおり定め、授業計画書（シラバス）及び『学生便覧』に記載し、ホームページにて公表している。

教育理念

本学の教育理念を基本として、最先端の科学的知識を有するリハビリテーション専門職の養成を図る教育を推進する。科学的専門知識の開発および教授に留まらず、保健・医療・福祉の連携と統合を意識した包括的な視点を有する専門職業人としての理学療法士を養成することにより、人々の健康、地域社会ならびに人類の幸福に貢献することをリハビリテーション科学部理学療法学科の教育理念とする。

教育目的

リハビリテーション科学部理学療法学科の教育理念に沿って、豊かな人間性と確固たる職業倫理観を身につけ、人々の健康と保健・福祉の向上に寄与するとともに、人々が暮らす生活に根差した地域的および国際的視野から医療の向上に貢献できるリハビリテーションのコアスタッフとしての理学療法士の養成を本学科の教育目的とする。

卒業の認定に関する方針

（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/rigaku/policy/>）

（概要）学位授与の方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

リハビリテーション科学部理学療法学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。

1. 生命の尊厳と個人の尊厳を基盤とした幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理観

<p>を持ち、優れたコミュニケーション能力を身につけている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 理学療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。 リハビリテーションの概念を深く理解し、保健・医療・福祉をはじめ多様な分野の専門職と連携・協働し、対象者中心のチームアプローチを実践する能力を身につけている。 リハビリテーション専門職として、地域および国際的な視野でリハビリテーションの発展に貢献する能力を身につけている。 常に変化する社会の要請を理解し対応できるよう生涯にわたって研鑽に努め、自らの専門領域を発展させる姿勢と自己学修力を身につけている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/rigaku/policy/)</p>
<p>(概要) 教育課程編成・実施に関する方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。</p> <p>リハビリテーション科学部理学療法学科の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 医療人に求められる幅広い教養を持った人間性、専門教育の基盤となる基礎能力、倫理観やコミュニケーション能力を形成するための全学教育科目を主に1年次から2年次にかけて配当する。 1年次にリハビリテーションの概念を理解する科目や基礎医学系科目、2年次に臨床医学系科目と理学療法評価・基礎治療系科目、3年次から4年次にかけて各種障害に対する理学療法治療学系科目に関する科目を配当し、理学療法に必要な専門知識と技術を体系的に学修できるよう編成する。また、4年次には理学療法特講を配当し、先進的な理学療法を学ぶ。 理学療法士としての基本的態度と臨床実践能力を養うために、医療機関および保健・福祉施設での臨床実習を各学年で実施する。臨床実習は、1年次に理学療法士の役割や業務内容などを学ぶ見学実習、2年次に理学療法の対象となる人およびその人を取り巻く社会や生活を知るための地域学習、3年次から4年次にかけて具体的な理学療法実践を経験する診療参加型実習を配当する。 全学年を通じて、チームアプローチに必要な協調的実践能力を育成するために、他職種との連携や多職種との連携・協働のあり方を学ぶ学部・学科横断型科目を段階的に展開する。 近隣地域との連携のもと、住民の健康に関する諸課題の発見・解決に取り組む3学科合同科目を配当する。また、外国語や異文化理解に関する全学教育科目、国際協力に関する専門科目を配当し、リハビリテーション専門職として地域および国際的な視野で活躍できる能力を涵養する。 学修方法では、1年次からグループワークや実践活動、少人数によるゼミナールなどを通じて能動的学修手段を積極的に取り入れ、科学的思考による問題解決能力、表現力、自己学修力を涵養する。 学修成果を把握・評価するために、筆記試験、ルーブリックを用いたレポート評価、実技試験、学修成果物などに対する直接評価、学修成果について学生本人の認識を通じて確認する間接評価、または直接評価と間接評価を組み合わせた評価を実施する。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/rigaku/policy/)</p>
<p>(概要) 入学者の受入れに関する方針を下記の通り定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。</p> <p>リハビリテーション科学部理学療法学科では、学位授与の方針の要件を修得し、社</p>

会の要請と期待に応じて地域や人々の健康の向上に貢献できる理学療法専門職の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

1. 理学療法学を学ぶために必要な基礎学力*を有している人
2. 論理的に思考・判断し、それを表現することができる人
3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を有している人
4. 生命を尊重し、他者を大切に思う心があり、良識ある行動がとれる人
5. 社会や人に関心があり、理学療法士として健康問題の解決を図る意欲と明確な目的を有している人
6. 探求心を持ち、生涯にわたって学修を継続し自己を磨く意思がある人

***基礎学力について**

高等学校等で修得する英語、数学、国語を基盤とし、生体の構造や機能を理解するための生物、化学、物理、および大学におけるリベラルアーツ教育の基盤となる社会系科目について1科目以上修得し身につけている学力をさします。

なお、入学者選抜区分ごとの入学希望者に求める能力、水準等の判定方法は以下のとおりです。適性を総合的に評価して入学者を選抜します。

「総合型選抜」は、これまでの学習・活動履歴や人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価します。また課題レポート・小論文などにより論理的思考力、表現力を評価します。

「学校推薦型選抜」は、学校長等からの推薦をうけて、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価します。また課題レポート・小論文などにより論理的思考力、表現力を評価します。

「一般選抜・共通テスト利用選抜」は、これまでの学習・活動履歴や人物を調査書等により評価し、学力試験により、英語・数学・理科・国語・地歴、公民等の多様な基礎学力を評価します。

「社会人特別選抜」は、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価し、課題レポート・小論文などにより論理的思考力、表現力を評価します。

「外国人留学生特別選抜」は、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲及び日本語能力を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価し、さらに学力試験により基礎学力を評価します。

学部等名 リハビリテーション科学部作業療法学科

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/sagyo/rinen/>）

（概要）教育理念および教育目的を下記のとおり定め、授業計画書（シラバス）及び『学生便覧』に記載し、ホームページにて公表している。

教育理念

本学の教育理念を基本として、最先端の科学的知識を有するリハビリテーション専門職の養成を図る教育を推進する。科学的専門知識の開発および教授に留まらず、保健・医療・福祉の連携と統合を意識した包括的な視点を有する専門職業人としての作業療法士を養成することにより、人々の健康、地域社会ならびに人類の幸福に貢献することをリハビリテーション科学部作業療法学科の教育理念とする。

教育目的

リハビリテーション科学部作業療法学科の教育理念に沿って、豊かな人間性と確固

たる職業倫理観を身につけ、人々の健康と保健・福祉の向上に寄与するとともに、人々が暮らす生活に根差した地域のおよび国際的視野から医療の向上に貢献できるリハビリテーションのコアスタッフとしての作業療法士の養成を本学科の教育目的とする。

卒業の認定に関する方針公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/sagyo/policy/>)

(概要) 学位授与の方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

リハビリテーション科学部作業療法学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。

1. 生命の尊厳と個人の尊厳を基盤とした幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理観を持ち、優れたコミュニケーション能力を身につけている。
2. 作業療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。
3. リハビリテーションの概念を深く理解し、保健・医療・福祉をはじめ多様な分野の専門職と連携・協働し、対象者中心のチームアプローチを実践する能力を身につけている。
4. リハビリテーション専門職として、地域および国際的な視野でリハビリテーションの発展に貢献する能力を身につけている。
5. 常に変化する社会の要請を理解し対応できるよう生涯にわたって研鑽に努め、自らの専門領域を発展させる姿勢と自己学修力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/sagyo/policy/>)

(概要) 教育課程編成・実施に関する方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

リハビリテーション科学部作業療法学科の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. 医療職に求められる幅広い教養を持った人間性、専門教育の基盤となる能力、倫理観やコミュニケーション能力を形成するための全学教育科目を主に1年次から2年次にかけて配当する。
2. 1年次から2年次にかけて作業療法の基礎および関連する医療基盤科目やリハビリテーション基礎科目、2年次からは作業療法基礎評価学演習や作業適用学演習、3年次から4年次にかけては各種障害に対する作業療法治療学に関する科目を配当し、科学的根拠に基づく作業療法に必要な専門知識や技術を段階的かつ体系的に学修できるよう編成する。さらに、修得した知識・技術をもとに対象者の就労支援や地域支援を学ぶための科目を配当する。
3. 作業療法士としての基本的態度と臨床的思考並びに実践能力を養うために、医療機関および保健・福祉施設での臨床実習を実施する。臨床実習は、1年次に作業療法士の役割や業務内容などを学ぶ臨床実習Ⅰ(臨床見学)、2年次に対象者の心身機能を把握するための基本的な臨床実習Ⅱ(検査・測定実習)、3年次に評価計画並びに治療計画を立案する臨床実習Ⅲ(総合臨床実習)、4年次に治療計画の実践を想定した臨床実習Ⅳ(総合臨床実習)を配当する。同学年次には地域における作業療法士の活動を実践的に学ぶ臨床実習Ⅴ(地域実習)も配当する。
4. チーム医療に必要な協調的実践能力を育成するために、多職種理解と連携・協働のあり方を学ぶ学部・学科横断型科目を段階的に展開する。具体的には、1年次は多職種連携入門、プロフェッショナルリズム入門、作業療法技術学演習Ⅰ、2年次は作業療法技術学演習Ⅱ、3年次は多職種連携演習、地域生活支援演習、4年次は全学連携地域包括ケア実践演習、対象者の暮らしと生活を配当す

- る。
5. 4年間を通しての学修方法は、実践活動、少人数によるゼミナール、卒業研究などのアクティブラーニングを積極的に取り入れ、科学的思考による問題解決能力、表現力や主体性・多様性・協調性を涵養する。
 6. 学修成果を把握・評価するためには、筆記試験、ルーブリックを用いたレポート評価、OSCE（客観的臨床能力試験）、学修成果物などに対する直接評価や学生自身によるリフレクションシートなどの間接評価、国家試験対策の一環としての模擬試験などを実施する。
 7. リハビリテーション専門職として、地域および国際的な視野で活躍できる能力を身につけるため、世界作業療法士連盟（WFOT）で定めた作業療法士教育の最低基準に準拠したカリキュラムを配置する。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/sagyo/policy/>）

（概要）入学者の受入れに関する方針を下記の通り定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

リハビリテーション科学部作業療法学科では、学位授与の方針の要件を修得し、社会の要請と期待に応じて地域や人々の健康の向上に貢献できる作業療法専門職の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

1. 作業療法学を学ぶために必要な基礎学力*を有している人
2. 論理的に思考・判断し、それを表現することができる人
3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を有している人
4. 生命を尊重し、他者を大切に思う心があり、良識ある行動がとれる人
5. 社会や人に関心があり、作業療法士として健康問題の解決を図る意欲と明確な目的を有している人
6. 探求心を持ち、生涯にわたって学修を継続し自己を磨く意思がある人

*基礎学力について

高等学校等で修得する英語、数学、国語を基盤とし、生体の構造や機能を理解するための生物、化学、物理、および大学におけるリベラルアーツ教育の基盤となる社会系科目について1科目以上修得し身につけている学力をさします。

なお、入学者選抜区分ごとの入学希望者に求める能力、水準等の判定方法は以下のとおりです。適性を総合的に評価して入学者を選抜します。

「総合型選抜」は、これまでの学習・活動履歴や人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価します。また課題レポート・小論文などにより論理的思考力、表現力を評価します。

「学校推薦型選抜」は、学校長等からの推薦をうけて、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価します。また課題レポート・小論文などにより論理的思考力、表現力を評価します。

「一般選抜・共通テスト利用選抜」は、これまでの学習・活動履歴や人物を調査書等により評価し、学力試験により、英語・数学・理科・国語・地歴、公民等の多様な基礎学力を評価します。

「社会人特別選抜」は、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価し、課題レポート・小論文などにより論理的思考力、表現力を評価します。

「外国人留学生特別選抜」は、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲及び日本語能力を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価し、さらに学力試験により基礎学力を評価します。

学部等名	リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/gen/rinen/ ）	（概要）教育理念および教育目的を下記のとおり定め、授業計画書（シラバス）及び『学生便覧』に記載し、ホームページにて公表している。
教育理念	本学の教育理念を基本として、最先端の科学的知識を有するリハビリテーション専門職の養成を図る教育を推進する。科学的専門知識の開発および教授に留まらず、保健・医療・福祉の連携と統合を意識した包括的な視点を有する専門職業人としての言語聴覚士を養成することにより、人々の健康、地域社会ならびに人類の幸福に貢献することをリハビリテーション科学部言語聴覚療法学科の教育理念とする
教育目的	リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科の教育理念に沿って、豊かな人間性と確固たる職業倫理観を身につけ、人々の健康と保健・福祉に寄与するとともに、人々が暮らす生活に根差した地域のおよび国際的視野から医療の向上に貢献できるリハビリテーションのコアスタッフとしての言語聴覚士の養成を本学科の教育目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/gen/policy/ ）	（概要）学位授与の方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。
	リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。 1. 生命の尊重と個人の尊厳を基盤とした幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理観を持ち、優れたコミュニケーション能力を身につけている。 2. 言語聴覚療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。 3. リハビリテーションの概念を深く理解し、保健・医療・福祉をはじめ多様な分野の専門職種と連携・協働し、対象者中心のチームアプローチを実践する能力を身につけている。 4. リハビリテーション専門職として、地域および国際的な視野でリハビリテーションの発展に貢献する能力を身につけている。 5. 常に変化する社会の要請を理解し対応できるよう生涯にわたって研鑽に努め、自らの専門領域を発展させる姿勢と自己学修力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/gen/policy/ ）	（概要）教育課程の編成及び実施に関する方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。
	リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。 1. 医療人に求められる幅広い教養を持った人間性、専門教育の基盤となる汎用的技能、倫理観やコミュニケーション能力を形成するための全学教育科目を主に1年次から2年次にかけて配当する。 2. 1年次から2年次にかけて言語聴覚療法の基礎および関連する一般医学を理解するリハビリテーション基礎科目、2年次から4年次にかけて各障害に対する

評価方法および治療技法を学修する言語聴覚療法専門科目を配当し、言語聴覚療法に必要な専門知識と技術を段階的かつ体系的に学修できるよう編成する。さらに、修得した言語聴覚療法の質を高め、効果的に対象者に提供できるよう、1年次また3年次から4年次にかけて言語聴覚療法マネジメントに関わる科目を実施する。

3. 言語聴覚士としての基本的態度と志向性、また臨床実践能力を養うために、医療機関および保健・福祉施設での臨床実習を2年次から4年次にかけて実施する。臨床実習は、2年次に言語聴覚士の役割や業務内容などを学ぶ見学実習、3年次に対象者の障害把握に用いる評価方法に関する評価実習、4年次に評価診断および訓練・指導・支援を修得する総合実習を配当する。
4. チーム医療に必要な協調的実践能力を育成するために、多職種の理解と連携・協働のあり方を学ぶ学部・学科横断型科目を1年次から4年次にかけて段階的に展開する。
5. 近隣地域と連携して、住民の健康に関する諸課題を発見・解決に取り組む3学科合同科目を3年次から4年次にかけて配当する。また、3年次に地域で言語聴覚療法を展開する上で必要となる制度や生活環境の整備から、介入の基本と実践方法を学ぶ地域言語聴覚療法学を配当する。さらに、外国語や異文化理解に関する全学教育科目を配当し、リハビリテーション専門職として国際的な視野で活躍できる能力を涵養する。
6. 学修方法では、1年次から実践活動、少人数によるゼミナールなどのアクティブラーニングを積極的に取り入れ、科学的思考による問題解決能力、創造的思考力、生涯にわたる学修力を涵養する。
7. 自律的かつ主体的にキャリア形成を実践できる力を育成するために、1年次から4年次にかけて、キャリアビジョン形成と多様なキャリア選択を支援するキャリア教育を正課内外で実施する。
8. 学修成果を把握・評価するために、筆記試験、ルーブリックを用いたレポート評価、実技試験、学修成果物などに対する直接評価、学修成果について学生本人の認識を通じて確認する間接評価、または直接評価と間接評価を組み合わせた評価を実施する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法: <http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/gen/policy/>)

(概要) 入学者の受入れに関する方針を下記の通り定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科では、学位授与の方針の要件を修得し、社会の要請と期待に応じて地域や人々の健康の向上に貢献できる言語聴覚療法専門職の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

1. 言語聴覚療法を学ぶために必要な基礎学力*を有している人
2. 論理的に思考・判断し、それを表現することができる人
3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を有している人
4. 生命を尊重し、他者を大切に思う心があり、良識ある行動がとれる人
5. 社会や人に関心があり、言語聴覚士として健康問題の解決を図る意欲と明確な目的を有している人
6. 探求心を持ち、生涯にわたって学修を継続し自己を磨く意思がある人

*基礎学力について

高等学校等で修得する英語、数学、国語を基盤とし、生体の構造や機能を理解するための生物、化学、物理、および大学におけるリベラルアーツ教育の基盤となる社会系科目について1科目以上修得し身につけている学力をさします。

なお、入学者選抜区分ごとの入学希望者に求める能力、水準等の判定方法は以下のとおりです。適性を総合的に評価して入学者を選抜します。

「総合型選抜」は、これまでの学習・活動履歴や人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価します。また課題レポート・小論文などにより論理的思考力、表現力を評価します。

「学校推薦型選抜」は、学校長等からの推薦をうけて、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価します。また課題レポート・小論文などにより論理的思考力、表現力を評価します。

「一般選抜・共通テスト利用選抜」は、これまでの学習・活動履歴や人物を調査書等により評価し、学力試験により、英語・数学・理科・国語・地歴、公民等の多様な基礎学力を評価します。

「社会人特別選抜」は、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価し、課題レポート・小論文などにより論理的思考力、表現力を評価します。

「外国人留学生特別選抜」は、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲及び日本語能力を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価し、さらに学力試験により基礎学力を評価します。

学部等名 医療技術学部臨床検査学科

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/medtech/rinen/>）

（概要）教育理念および教育目的を下記のとおり定め、授業計画書（シラバス）及び『学生便覧』に記載し、ホームページにて公表している。

教育理念

本学の教育理念を基本として、最先端の科学的知識を基盤とした臨床検査の専門職の養成を図る教育を推進する。科学的専門知識と技術の開発・教授に留まらず、「考える力」を駆使する課題解決能力に秀でた人材の養成と、また、保健・医療・福祉の連携・統合を意識し、広い視野を備えた専門職業人の養成により、地域・国際社会ならびに人類の健康と幸福に貢献することを医療技術学部臨床検査学科の教育理念とする。

教育目的

医療技術学部臨床検査学科の教育理念に沿って、最先端の科学的知識を基盤とする専門知識と技術に裏打ちされた課題解決能力を身につけ、確固たる倫理観と専門性に基づいて保健・医療・福祉の分野で社会に貢献できる専門職業人としての臨床検査技師の養成を本学科の教育目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/medtech/policy/>）

（概要）学位授与の方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

医療技術学部臨床検査学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。

1. 生命の尊重を基盤とした豊かな人間性、幅広い教養、高い倫理観を身につけている。
2. 臨床検査に必要な知識と技術を修得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。
3. 保健・医療・福祉の各分野の役割を理解し、チーム医療の一員としての自覚とそれを実践するための専門性と協調性を身につけている。

4. 臨床検査のスペシャリストとして、進歩や変化に常に関心を持ち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。
5. 多様な文化や価値観を尊重し、地域的・国際的な視野で活躍できる能力を身につけている。
6. 臨床検査学領域における様々な問題や研究課題に対し、解決に向けた情報の適切な分析、科学的思考と的確な判断ができる能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/medtech/policy/>)

(概要) 教育課程の編成及び実施に関する方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

医療技術学部臨床検査学科の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. 1年次には、医療人としての豊かな人間性と幅広い教養を養う全学教育科目、さらに、チーム医療に求められるコミュニケーション能力を養い、多職種連携に関する理解を深めることを目的とした全学部学生が合同でおこなう科目を配当する。また、人体の構造や機能を学ぶ基礎医学科目や早期に臨床検査分野に対する動機付けを図るための臨床検査学の基礎に関する専門科目を配当する。
2. 2年次には、臨床検査に対する理解を深め、専門知識を豊富にすることを目的とした臨床検査学の講義および実習科目を配当する。
3. 3年次には、臨床検査技師に必要な技術を修得することを目的とした臨床検査学および関連する実習科目、さらに医療現場での臨床検査に関する知識を深め、臨床検査技師としての自覚を培うことを目的とした臨床実習を配当する。また、臨床の現場で実際に臨床検査技師が関わるチーム医療や在宅医療の理解、患者への接遇、リスクマネジメントの重要性を学ぶことを目的とした科目を配当する。
4. 4年次には、研究を通して、科学的な思考による問題解決能力やプレゼンテーション能力を養うことを目的とした卒業研究を配当する。さらに、創造性、思考力、生涯にわたり自己研鑽する意欲を備え、指導的役割や教育・研究を担う臨床検査技師としての能力、同時に、先進・高度化する医療に対応できる能力を養うことを目的とした科目を配当する。
5. 国際的な視野で活躍できる力の育成に向けて、1年次～4年次にわたって英語の科目、そして1年次に初修外国語（ドイツ語、中国語、ロシア語）を配当し、さらに、英米哲学の問題理解（人間と思想）、グローバルな観点からの自然環境・社会経済の変化と感染症（医療社会史）、欧米の医療保険制度（医療の経済学）などの異文化理解に関する科目を配当する。
6. 学修成果を把握・評価するために、筆記試験、実技試験、ルーブリックを用いたレポート評価などを適宜実施する。

入学者の受入れに関する方針 (公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/medtech/policy/>)

(概要) 入学者の受入れに関する方針を下記の通り定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

医療技術学部臨床検査学科では、学位授与の方針の要件を修得し、医療社会の要請と期待に応えて地域や人々の健康の向上に貢献できる臨床検査専門職の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

1. 入学後の修学に必要な基礎学力*を有している人
2. 協調性や基礎的な思考力と表現力を有している人

3. 生命を尊重し、他者を大切に思う心がある人
4. 保健・医療・福祉に関心があり、地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという目的意識を持っている人
5. 生涯にわたって学習を継続し、自己を磨く意欲を持っている人

*基礎学力について

医療技術学部臨床検査学科では、入学後、専門科目の基礎として、生体成分の化学的特性やその測定のための化学反応を理解するための化学、検査結果の妥当性を評価するための数学・統計学、生体情報の取得のための音や電気の特性を理解するための物理学、病気による生体成分や生体情報の変化を理解するための生理学・生化学・病理学などの科目があります。すなわち、高校で学習した数学、理科（化学、生物、物理）の知識や考え方を有効に活用することが学修成果を高めることにつながります。

ここに示す「基礎学力を有し」とは、上記科目を高校で履修していることをさします。ただし、理科 3 科目全ての履修は限定されるため、少なくとも 1 科目を履修しており、未履修の科目については合格後に本学が提供する教育プログラムを受講することを推奨します。

なお、入学者選抜区分ごとの入学希望者に求める能力、水準等の判定方法は以下のとおりです。適性を総合的に評価して入学者を選抜します。

「総合型選抜」は、これまでの学習・活動履歴や人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価します。また課題レポート・小論文などにより論理的思考力、表現力を評価します。

「学校推薦型選抜」は、学校長等からの推薦をうけて、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価します。また課題レポート・小論文などにより論理的思考力、表現力を評価します。

「一般選抜・共通テスト利用選抜」は、これまでの学習・活動履歴や人物を調査書等により評価し、学力試験により、英語・数学・理科等の多様な基礎学力を評価します。

「社会人特別選抜」は、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価し、さらに学力試験により基礎学力を評価し、課題レポート・小論文などにより論理的思考力、表現力を評価します。

「外国人留学生特別選抜」は、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲及び日本語能力を面接・プレゼンテーション・調査書等により評価し、さらに学力試験により基礎学力を評価します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/disclosure/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
薬学部	—	19人	15人	12人	16人	1人	63人
歯学部	—	26人	11人	19人	42人	20人	118人
看護福祉学部	—	17人	13人	12人	16人	0人	58人
心理科学部	—	4人	5人	4人	2人	0人	15人
リハビリテーション科学部	—	16人	7人	18人	10人	2人	53人
医療技術学部	—	7人	1人	8人	0人	0人	16人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長				学長・副学長以外の教員			計
0人				324人			324人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/disclosure/faculty-staff/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
教員の資質向上と能力開発等を目的としたFD研修を実施しており、全学FD委員会主催による年2回（2024年度実績）の全学FD研修のほか、全学FD講演会や各学部等のFD委員会によるFD活動も行われている（2024年度実績：のべ33回）。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部名等	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
薬学部	160人	130人	81.3%	1,000人	914人	91.4%	40人	5人
歯学部	80人	88人	110.0%	480人	458人	95.4%	0人	18人
看護福祉学部	180人	167人	92.8%	730人	646人	88.5%	10人	6人
心理科学部	75人	64人	85.3%	300人	266人	88.7%	0人	0人
リハビリテーション科学部	180人	189人	105.0%	720人	752人	104.4%	0人	0人
医療技術学部	60人	75人	125.0%	240人	290人	120.8%	0人	0人
合計	735人	713人	97.0%	3,470人	3,326人	95.9%	50人	29人

(備考)

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
薬学部	136人 (100%)	0人 (0%)	75人 (55.1%)	61人 (44.9%)
歯学部	48人 (100%)	0人 (0%)	38人 (79.2%)	10人 (20.8%)
看護福祉学部	153人 (100%)	1人 (0.6%)	145人 (94.8%)	7人 (4.6%)
心理科学部	58人 (100%)	11人 (19.0%)	38人 (65.5%)	9人 (15.5%)
リハビリテーション科学部	197人 (100%)	1人 (0.5%)	182人 (92.4%)	14人 (7.1%)
医療技術学部	48人 (100%)	2人 (4.2%)	46人 (95.8%)	0人 (0%)
合計	640人 (100%)	15人 (2.3%)	524人 (81.9%)	101人 (15.8%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)

薬学部：病院、保険薬局、ドラッグストア
 歯学部：歯科医師臨床研修医
 看護福祉学部
 看護学科：大学院、病院、保健所、市役所・区役所
 福祉マネジメント学科：社会福祉施設、病院、公務員、高等学校、特別支援学校、一般企業
 心理科学部：大学院、一般企業、公務員、社会福祉施設
 リハビリテーション科学部
 理学療法学科・作業療法学科・言語聴覚療法学科：大学院、病院、社会福祉施設
 医療技術学部：大学院、病院、製薬企業、検査センター、血液センター

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

(備考)

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

- ・授業計画書(シラバス)は、次年度の科目担当教員確定後、概ね12月～1月の期間内で「シラバスWEB編集システム」を用いて担当教員自身が作成しており、事務局による校正および教員による第三者チェックを経て、3月下旬までに完成している。
- ・作成した授業計画書はホームページにて公表しており、学生・教職員だけでなく、高校生や保護者・社会人などの第三者も閲覧できるよう整備している。
- ・記載内容は「建学の理念」「教育理念」「教育目標」「大学及び学部の三方針」「教務日程」「時間割」のほか、各授業科目については、「授業形態」「配当学年・学期」「必修・選択区分」「単位数」「担当者名」「概要」「学修目標」「学修内容」「評価方法」「備考(教科書等)」「学修の準備」「ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連」「実務経験」等の各項目で構成されている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 全学および各学部において下記の通り「学位授与の方針」を定めており、『学生便覧』に掲載し、ホームページにて公表している。

学位授与の方針【全学】

北海道医療大学は、大学および各学部学科の教育理念・教育目的に基づいた教育目標の達成に向けて、全学教育および専門教育科目を履修し、保健・医療・福祉の高度化・専門化に対応しうる高い技術と知識、優れた判断力と教養を身につけ、各学部学科が定める履修上の要件を満たした学生に対して「学士」の学位を授与します。

学位授与の方針【例：薬学部】 ※他学部も同様に学部・学科ごとに定め、公表している。

薬学部薬学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。これらの要件には、薬剤師として社会で活躍するための基本的な10の資質*の養成が含まれる。

1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。
2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。
3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域のおよび国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。
4. 卒業研究や実務実習等を通じて、医療の進歩に対応できる柔軟性、高度先進技術の理解と活用、ならびに臨床における問題点を発見・解決する能力を有する。
5. 後進の育成に努め、かつ生涯にわたって常に学び続ける姿勢と意欲を有する。

*薬剤師として求められる基本的な資質

- ① プロフェッショナリズム
- ② 総合的に患者・生活者を見る姿勢
- ③ 生涯にわたって共に学ぶ姿勢
- ④ 科学的探究
- ⑤ 専門知識に基づいた問題解決能力
- ⑥ 情報・科学技術を活かす能力
- ⑦ 薬物治療の実践的能力
- ⑧ コミュニケーション能力
- ⑨ 多職種連携能力
- ⑩ 社会における医療の役割の理解

また、学則において卒業要件を下記のとおり定め、授業計画書(シラバス)及び『学生便覧』

に記載し、ホームページにて公表している。

(単位・時間数) ※例：薬学部 (他学部も同様に学部・学科ごとに定めている)
 第 30 条 薬学部の学生は、別表に定めるとおり、全学教育科目 32 単位及び専門教育科目 160 単位、総計 192 単位以上修得しなければならない。
 (卒業)
 第 44 条 看護福祉学部、心理科学部、リハビリテーション科学部及び医療技術学部に 4 年以上、薬学部及び歯学部に 6 年以上在学し、第 30 条において各学部ごとに定める単位を修得した者については、当該学部の教授会及び評議会の議を経て、学長が卒業を認定する。

上記の方針及び卒業要件を踏まえ、単位修得状況等をもとに各学部教授会及び評議会の議を経て、学長により適切に卒業を認定することとしている。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
薬学部	薬学科	192 単位	有	45 単位
歯学部	歯学科	288 単位	有	60 単位
看護福祉学部	看護学科	135 単位	有	55 単位
	福祉マネジメント学科	131 単位	有	55 単位
心理科学部	臨床心理学科	127 単位	有	48 単位
リハビリテーション科学部	理学療法学科	129 単位	有	48 単位
	作業療法学科	132 単位	有	48 単位
	言語聴覚療法学科	128 単位	有	48 単位
医療技術学部	臨床検査学科	144 単位	有	46 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法： http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/about/disclosure/gpa/		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法： https://www.hoku-iryu-u.ac.jp/assets/pdf/about/disclosure/life_enq_r2-r6.pdf http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/assets/pdf/about/disclosure/evaluation_enq.pdf		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/about/disclosure/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
薬	薬	第1学年 1,600,000円 (第2学年以降 1,900,000円)	300,000円	50,000円	休学在籍料 50,000円(半期)
歯	歯	第1学年 3,800,000円 (第2学年以降 4,100,000円)	300,000円	50,000円	休学在籍料 50,000円(半期)
看護福祉	看護	第1学年 1,200,000円 (第2学年以降 1,500,000円)	300,000円	50,000円	休学在籍料 50,000円(半期)
	福祉 マネジメント	第1学年 690,000円 (第2学年以降 990,000円)	300,000円	150,000円	休学在籍料 50,000円(半期) 特別実習費: 50,000円 教職課程履修費: 50,000円
心理科(学)	臨床心理	第1学年 900,000円 (第2学年以降 1,200,000円)	300,000円	50,000円	休学在籍料 50,000円(半期)
リハビリテーション科(学)	理学療法	第1学年 1,075,000円 (第2学年以降 1,375,000円)	300,000円	50,000円	休学在籍料 50,000円(半期)
	作業療法	第1学年 1,075,000円 (第2学年以降 1,375,000円)	300,000円	100,000円	休学在籍料 50,000円(半期) 音楽療法士コース履修費: 50,000円
	言語聴覚療法	第1学年 1,075,000円 (第2学年以降 1,375,000円)	300,000円	50,000円	休学在籍料 50,000円(半期)
医療技術	臨床検査	第1学年 1,150,000円 (第2学年以降 1,450,000円)	300,000円	50,000円	休学在籍料 50,000円(半期)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要) 経済的理由により大学進学が困難な状況にある方の進学を支援する「夢つなぎ入試」制度を実施している。また、大学独自の奨学金制度のほか、2024年度より特待奨学生制度の対象を全学部・学科に拡充し、経済的に修学を支援している。</p> <p>日本学生支援機構の給付型奨学金の採用候補者である入学者に対しては、申請に基づき前期分の授業料等の徴収を猶予し、6月頃より採否が決まりしだい順次、授業料等の納入案内を行っている。</p> <p>また、経済的理由によって納入が困難であり、かつ、学業優秀又はその他やむを得ない事情があると認められる場合は、前期は7月15日まで、後期は12月15日まで授業料等の徴収を猶予している。(通常の納付期限は前期: 4月15日、後期: 9月15日)</p> <p>障がいのある学生への修学支援として、障がい学生支援委員会を設置し合理的配慮の提供体制を整備している。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要) 学生の進路選択に資するよう、低学年次から卒業生講話やキャリアガイダンス、業界研究セミナー、就職相談会等を実施している。また、就職相談室における個別指導を実施している。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要) 毎年4~5月に定期健康診断を実施しており、同時期に新入生全員を対象としたピロリ菌検査も実施し、学生の健康管理を支援している。また、札幌あいの里キャンパスの大学病院は学生も利用することができ、当別キャンパスの保健センターには医師・保健師・看護師が常駐しており、急性疾患への対応やワクチン接種、健康相談などを行っている。なお、両キャンパスに学生相談室を設け、公認心理師・臨床心理士資格を持ったカウンセラーが毎日学生の相談に対応している。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/about/disclosure/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。